

社会科的生活科に資料を選取し、情報授業改善推進のための検証

(中) (高) 統計資料の表題、縦軸・横軸の意味やデータの傾向が資料から読み取れないため、設問内容を正確に読み取る能力が課題。そのため、算数の学習（3年「棒グラフと表」4年「折れ線グラフ」4年生の社会的事象への関心・関与態度）各学期待正答率資料を讀み数値を得る目標とした時間を確保して世の中での動きや関心を自ら読み取り、この朝の考えを紙に書き出させ、それを友達の友達に伝達活動に取り組み、その結果が表読み取れるのかを、互いに確認し、学年も地域学習に資料活用期に期待正答率も高いポイントを得ている。地域のまわりのマッピングや体験学習を取り入れて、調べた成果を表現し発表も機会も増えていく。さらには、必ず資料から読み取れる事柄や自分の感想・意見を書かせる。教師は、問題解決に陥った資料を選取る必要ながてきを読み取る確認する機会を必要取入れることで、活用能力の資料を選取する力を身につけるため、自分の課題を解決するためにはどの資料を選ばよいかを考えさせる機会を多く取り入れるようにしてきたが、まだ十分な力が身につけてきたとは言えない。

<p>内容別結果の分析</p>	<p>「まちの地図の見方」の正答率が、期待正答率よりも下回っており、地図記号や方位、地図の読み取りに課題があると言える。</p> <p>○5年では「昔のくらしの様子」や「伝統工業」において、正答率が期待正答率よりも上回っている。一方「地形図の見方」では、期待正答率よりも下回っており、方位や地図記号、等高線の理解に課題があると言える。</p> <p>○6年では「日本の農業」の正答率が、期待正答率よりも上回っている。一方、「日本の水産業」の正答率が、期待正答率よりも下回っており、日本付近を流れる海流の名称など、基礎的な知識や地理的な理解に課題があると言える。</p>
<p>観点別結果の分析</p>	<p>○「社会科への関心・意欲・態度」の正答率の数値は、どの学年も期待正答率より上回っている。特に4年生は上回っており、社会科に対して意欲的であることが分かる。</p> <p>○「観察・資料活用の技能・表現」は、4年生、6年生では期待正答率よりも下回っている。マイナス幅は少ないが、資料を正しく読み取り、その結果を課題の解決に生かす力の育成に力を入れたい。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 地図記号が理解できていないため、地図の読み取りができない。地図が活用できない。
→ 地図や地図記号の読み方の定着を図る。
2. 見学や体験したことと、教科書に出てくる用語や内容とが結びついていない。
→ 調べたこと、体験したことを自分の生活に関連づけて考え、実感を伴った知識・理解として定着できるようにする。
3. 問題を解決するためには、どの資料を選び、どのように活用すればよいかの判断が難しい。
→ 学習のめあてを明確にし、その達成のために必要な条件は何かを常に意識させることにより、目的に応じて資料を選択し、活用する力を育てる。

社会科・生活科の授業改善策

1. 地図や地図記号の読み方の定着を図るために
(低) 学校探検や公園探検、町探検などで見つけた施設やそこにいた人々などを絵地図に表す活動を取り入れる。一枚の大きな絵地図を作ることにより、どこに何があつてどんな人がいたのかが一目で分かることを理解させる。そうした活動を通して、地図の利便性を実感できるようにする。

